

《令和6年度 能美市立宮竹小学校 学校評価》

重点目標 (目さす姿)		具体的方策	主担当	【評価指標】 (成果指標)(努力指標) (満足度指標)	【評価の根拠】 達成度判断基準	評 価	課 題	学校関係者による意見	今後の改善策(重点策◎)
1	組織的な学校運営(「くがい」のある学校風土)	①【目標達成に向けた組織力の向上】 「プロジェクトM」を核にして、目標を共有して連携・協働する。検証・改善の視点を絞ったPDCAサイクルを積み重ね向上に向かう。	教務主任	【満足度指標】 「プロジェクトM」を核として焦点化した取組を組織的・計画的に積み上げ児童の変容を実感している。	【教職員アンケート】 目標達成に向け主体的に協働し、児童の姿の変容から教育的効果や自己の資質能力の向上を実感できた。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	A	・児童のよさや課題について意識しながら、会議だけでなく日常的に各主任を中心に学校教育目標の実現に向けて話し合い、学校組織として計画的に運営を継続していく		◎ 効果的な教育活動をし ・効果的な教育活動を行うことを大切にして、取り組みを行っていく。また、今年度の取組を検証し、来年度に向けて継続するものや内容の改善について、各分掌で話し合って決める。
		②【安全・安心な学校づくり】 ヒヤリハットの発信に心がけ、全職員の危機意識を向上させる。いじめ・不登校を始めとする諸課題の未然防止と早期対応・解決に努める。	教頭	【努力指標】 全職員が「いじめ等記録シート」を持ち児童等の情報交流に努めるなど、主体的にヒヤリハットの発信や危機管理「さしすせそ」を実行している。	【教職員アンケート】 全職員が「いじめ等記録シート」を持ち児童等の情報交流に努めるなど、主体的にヒヤリハットの発信や危機管理を実行している。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	A	・児童の小さな変化を見逃さず、日常からアンテナ高く児童理解にめること ・単級なので、担任が対応を一人で行うのではなく、組織で対応すること	・安心・安全な学校づくりについては、先生方の積極的な関わり、細かな配慮やコミュニケーションがとれていることを感じる。	◎ 積極的に児童と関わりをもち、コミュニケーションをとる ・生徒指導主事や特支コーディネーターが情報集約の中心となり、早期対応を継続していく。
		③【業務改善と働きがいの実感】 ねらいの焦点化と協働化を徹底する。各会の運営の工夫と業務の平準化を行い、達成感の共有・働きがいをを感じる職場づくりを実現する。	教頭	【努力指標】 焦点化された会議の運営の工夫や業務の平準化・協働化の促進によって、達成感及び効率性を感じる業務改善に努めている。	【教職員アンケート】 焦点化された会議の運営の工夫や業務の平準化・協働化の促進によって、達成感及び効率性を感じる業務改善に努力した。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	C	・業務の偏りが十分に解消できていない部分がある ・前例踏襲ではなく、今何が必要なのか学校経営ビジョンにも照らし合わせながら、焦点化した会の運営。児童の姿で常に考える	・業務改善し職員の方々の負担が軽くなることを願う。 ・いろんな仕事をしている教職員の方がいてありがたい。	◎ 業務の精選。時間の確保。焦点化した会議の運営。 ・業務の精選や校務でICTを活用した校務DXを進められるよう、準備をしていく。(他校の実践も参考に。サイトの活用を進める) ・業務の平準化。担当の偏りがなく、組織体制を見直しをする。
2	知(能動的な学習の充実↓確かな学力の育成)	① 【授業改善】 「個別最適」で「協働的」な学びの一体的な充実による3つの学力(学びの自己調整力)の向上をめざす。	研究主任	【成果指標】 単元構想含む研究授業(全体・部会)を一人1回以上行う。また、国語算数学期末まとめテストの平均85以上	【授業公開と学期末まとめテスト】 ①授業公開 ②国語算数学期末まとめテストの平均85点以上 <90 点以上 A, 89～80B, 79～71C, 70 以下 D>	A	・多くの職員によるブロックを超えての授業参観 ・外部講師を招聘した学習会や授業検討会等の取組の継続。 ・基礎学力向上と指導力強化が課題である。全教員での授業改善の継続が必要である ・効果的な校内研修の設定	・「子どもたちに学習課題解決を委ねながら学力向上を図る」という授業の展開について、学校として取り組んでいてよい。 ・授業や宿題でのクロームブック活用で子どもたちが使いこなしていて驚いた。 ・子どもたちがのびのびと意見を言えているのがよい。	◎ 「子どもに委ねながら学力をつける授業実践」 ・次年度の算数研究に向けて、具体的な指導法や学力向上の手立てを全教職員で研究し、子どもの「学び方」を進化させる。今年度の振り返りをしっかりと行う。
		②【基礎基本の定着】 朝学習ーフォローアップタイムー家庭学習の充実について組織的に「学びの連続性」を図り、児童の学力向上を実現する。	研究・教務主任	【成果目標】 朝ー授業ー放課後の学習の充実を定期的 に点検・改善し、児童のinput・outputの力を向上させている。漢字・計算テスト平均85以上	【基礎基本定着検証テスト】 検証テスト平均85以上 <90 点以上 A, 89～80B, 79～71C, 70 以下 D> 【保護者アンケート】 家庭学習について励ましや認める声かけを行っている。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	B	・児童の学習意欲をさらに高める仕組みづくり ・地域の方による、年間を通しての授業支援の継続	・地域ボラの方の学習サポートをしていると、できるようになって喜ぶ子どもの姿が見られてうれしい。基礎は繰り返すことが大切なので継続していってほしい。	◎ 基礎基本の定着 ・「わかる」「できる」という気持ちを大切にする。また、基礎・基本の定着を図るため、児童のやる気を引き出す活動を工夫していく。 ・「学びの連続性」を意識し、朝学習やフォローアップタイム、家庭学習の内容を精査し、効果的なものにしていく。
		③ 【読書活動の推進】 学校や家庭での読書推活動を推進し、読書の量や質の向上を目指す。	図書担当 司書	【成果目標】 「10冊チャレンジ」「分類チャレンジ」等、学年に応じた年間の取組において学期に3冊以上読書をしている。	【取組の達成率】 学期に3冊以上読んでいる児童の割合 <90 以上 A, 89～75B, 74～70C, 69 以下 D>	A	・図書室に足を運んでもらう働きかけの工夫 ・取り組みに意欲的に参加できるようにするための工夫		◎ 読書の推進 ・読書量を増やすためにも、読書の時間を確保していく。 ・図書委員会でイベントや声掛けを行い、来年度へつなぐ
3	徳(信・任・認による豊かな人間性の育成)	①【魅力ある学校づくり】 あらゆる教育活動において「生徒指導の4つの視点」を意識し、児童の達成感と意欲につなげ「信・任・認による魅力ある学校」を創る。	生徒指導 プロジェクトM	【満足度指標】 「魅力ある学校づくり」アンケートをもとにしてPDCAを実働化し、児童のA評価が増える。	【教職員アンケート】 児童アンケートA分析のPDCAを通して「信・任・認による子どもが主役」の学校づくりに参画している。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D> 【児童「魅力ある学校づくりアンケート」】 A評価が4項目とも4割超える。または増加している。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	A	・全ての教育活動で児童の主体性を伸ばそうという共通理解、共通実践。 今後も継続 ・低学年の主体性に関係する項目が高学年に比べて低い。	・登校時、挨拶を子どもたちからしてくれるようになっていてうれしい。 ・縦割り活動のさらなる充実をしていってほしい。	◎ 実践の共有と成長の実感 ・生徒指導の4つの視点を意識した働きかけ(自己決定の場の提供)を行い、児童の主体性を育んでいく。また縦割り集会や6年生を送る会などを児童の主体性を高める場として職員が共通理解を図って来年度への準備、計画を進めていく。 ・低学年の主体性を向上させるために、縦割り活動を増やし高学年のよい姿を広めていく。
		②【PDCAが実働化する集団づくり】 縦割り学習活動等について目標を明確に共有し「信・任・認」を効果的に実施し、主体性・協働性の育成や自治的精神の礎を積み重ねる。	児童会・担任	【満足度指標】 縦割り学習活動等を通して、「信・任・認」を効果的に実施し自己有用感や共感的人間関係、自治的精神を積み重ねる	【児童アンケート】 縦割り学習や活動を通して、仲良しが増え学校が良くなっていると感じる。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	B	・児童の縦のつながりをもたせるために、めあてを共有し、実践をしていく必要がある	・先生方のチームワークがよい。とても丁寧に見てもらえてありがたい。	◎ 全校でつながる・集団づくり ・振り返りの時間を大切にすることで「魅力のある学校づくり」と同様に、全校児童のつながりを実感する機会を増やしていく。
		③【「ダイバシティ教育」の充実】 道徳教育を始め、SDGs教育やキャリア教育等を通して、ダイバシティ教育の実現を目指す。	キャリア 教育担当	【成果指標】 年間学習計画における位置づけや日々の指導支援により、児童の意識の変容を図っている。	【児童アンケート】 「(自分・クラスは、先生は) 分け隔てなく・お互いのよさを認め合うことができている」 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	B	・教師の「生徒指導の4つの視点」を意識した声掛け ・キャリアパスポートの効果的な活用 ・児童相互に良いところや素敵などところを見つけ年間を通して児童が意識できるような取り組み		
4	体(心身の健康を育む)	①【体力向上】 1校1プランに則り、「握力」「自発的協働性」を重点とする。児童一人一人に目標を持たせ計画的に取り組ませる。実感を伴う体力の向上に努める。	保健主事 ・体育担当	【成果指標】 個々がめあてを意識し、継続的に「握力」「協働性」(スポチャレ) 向上に取り組み、記録を向上している。	【児童アンケート】 「体力を高めるために、一生懸命に運動することができた」 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	B	・握力を向上させるには、全身運動が必要であり、組織的・継続的に体育の授業で体を動かしたり、外遊びを推奨したりなど日常的に意識する		◎ 総合的な体力向上 ・体育の時間にのぼり綱を使ったり、握る運動を取り入れたりする。日常的な活動の工夫をする。握力測定コーナーの設置。 ・体育的行事を見通しをもち今後も取り組めるようにしていく。
		②【心身の健康力の向上】 心の健康を保つために、心の健康予防教育を中心に取組を推進する	保健主事 ・養護教諭	【努力指標】 心の健康予防プログラムの授業を中心に、心の健康に対する児童の意識の変容を図っている。	【プログラム前後の児童アンケート】 「授業などの取組を通して、学んだことを理解している」 (各学年ごとに内容に沿ったアンケート項目) <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	C	・マイナス思考をポジティブ思考に考え方を変化させること	・ニュースでは自殺者が増えている。心のケアを行うことはとても大切。サポーター支援も子どもたちの心のケアに役立っていると思う。	◎ 心身の健康力の向上 ・来年度教育課程に位置づけ、年間を通して心の健康に関する取組を行う。児童保健委員会からも心の健康についての発信を行う。 ・ポジティブ思考を身に着けるには、繰り返しどのようにするとよいのかを考えるように声かけを行う

5	家庭・地域との連携	① 【開かれた学校づくり】 「学校運営協議会」を活用し、「ふるさと SDG s 学習」をはじめ、学校・家庭・地域が協働して「みやっこ」の実現につながる取組を推進する。	教頭	【満足度指標】 学校運営協議会等を活用し、学校・家庭・地域が協働して「みやっこ」の実現につながる教育活動を実施し、地域の良さを実感している。	【教・児アンケート】 学校運営協議会等を活用し、「みやっこ」の実現につながる教育活動を充実し、「ふるさとのよさ」を実感している。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	A	・学校全体の行事や、学年ごとの学習で学校サポータの協力の推進。 ・サポータの協力を得る機会を増やしたり、教職員のふるさと理解を進めたりする取組を実施。	・今後も学校運営協議会等で学校の力になっていきたい ・昼検定等、今後も積極的に支援をしていきたい。他の学年でも先生方の負担を少しでも軽減できるお手伝いができればと思う。	◎地域とのつながり ・今後も、学校運営協議会の方々と連携し児童の望ましい成長につながるような支援を行っていく。多くの地域の方と関わることで、ますますふるさとに愛着が持てるよう、効果的な活動にしていく。ボランティアさんの直接の声を活動につながるような工夫をし、児童も感謝の気持ちを伝えられるようにしていく。 ◎適切な児童理解 ・担任や保護者、支援員、スクールカウンセラー、関係機関との連携を大切にしていく。そのために、情報共有を密に行い、支援のタイミングを逃さないようにしていく。
		② 【特別支援・多様性理解の充実】 特別支援をはじめとする「多様性の理解」や各種機関との連携協働をすすめ、個や保護者に寄り添いより良い成長につながるよう努める。	特支 コー	【努力指標】 特別支援を中心に多様性の理解や、個や保護者に寄り添いより良い成長につなげるための各種機関との連携協働に努める。	【教アンケート】 特別支援を中心に、個や保護者に寄り添いより良い成長につなげるための各種機関との連携協働に努め効果を感じている。 <95 以上 A, 94～85B, 84～75C, 74 以下 D>	A	・個に合った支援が行えるよう、担任や保護者、支援員、外部機関との連携を大切にしていく	・各種機関との連携で、保護者も安心できている。	